

4 源流域の生きもの

① 植物

左会津川水系は、龍神山や高尾山の山すそを流れ下っていきます。その上流側では、流れは急ではないのですが、和歌山県の山間を流れる他の河川と同じような様相を呈しています。たとえば、流域の水田の畦にゼンマイやサツキが密生していたり、落葉樹のコクサギやアブラチャン、常緑樹のタラヨウやシラカシのような紀北の山間部に多い木が目立つようになります。今では見られませんが、昭和の中頃まではウメバチソウやトモエソウの美しい花が点々と咲いていたということです。山林の大部分はウバメガシ萌芽林やシイ、カシ萌芽林とスギ、ヒノキの植林で、あまり深い自然林ではないのですが、朝夕霧のかかる冷涼な気候につつまれて、海岸部とは一味違った地域だと考えられます。

早春から水田の畦にハルリンドウが美しい花をつけ、セリバオウレンが小さくて可憐な花をつけます。新芽とともに開花するクロモジやコナラ、ウバメガシなどは、じっくり観察すると微妙な美しさがあり、たくさんの昆虫たちを集めています。

初夏からは道端の乾燥地にオカトラノオ、湿地にヌマトラノオ、秋にはリンドウ、アケボノソウ、



源流域



サツキ



ハルリンドウ



ヌマトラノオ

アサマリンドウ、オオルリソウ、シモバシラ、アキ
チョウジ、ヒキオコシなどいろいろ見られます。

葉のまん中に花が咲くハナイカダという低木
があります。花は緑色で目立ちませんが、実が
熟すると黒くなり、それが葉の上に一つ乗っかっ
ているようすは、ちょっと奇妙な感じがします。

この地域には腐生植物も多く見つかっていま
す。腐生植物とは、根に菌類が共生して、それ
から栄養をもらって生活している植物のことで
す。そのため、緑の葉もなく、茎と花だけの奇
妙な形をしています。南方熊楠も強い関心を持っ
ていたらしく、彼が中心になって詳しく調べてい
ます。大形でアケビのような実をつけるツチアケ
ビ、森林の落ち葉の中から真っ白の花をのぞかせる
ギンリョウソウ、ギンリョウソウモドキ、それ
らによく似ているがいくつもの花をつけるシャク
ジョウソウ、針金のような細くて小さな花をつけ
るホンゴウソウ、硬くて黒い茎に花だけつける
ムヨウラン類、^{あんかつしよく}暗褐色の花を落ち葉のすき間に咲
かせるヤツシロラン類、^{りんえん}林縁や果樹園の腐葉土か
ら突然純白の^{くき}茎を群生させるタシロランなど。

その他に、クモランという葉が退化して一見
根だけの植物になったの
もあります。根に葉緑体
を持っているので生きて
いけるのです。



アケボノソウ



ツチアケビ (花)



ツチアケビ (実)



ギンリョウソウ



ホンゴウソウ



クモラン

② 動物

哺乳類では山間部に見られるほとんどのものが人家周辺の低地にも出没する上、農作物への加害も少なくありません。昔はイノシシやノウサギ、ネズミなどが農作物に被害を与えていましたが、最近ではニホンザル、ホンシュウジカ、時にはニホンカモシカも加わっているということです。小型哺乳類では、リス、アズマモグラ、ヒミズ、ジネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、それにユビナガコウモリ、モモジロコウモリ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、アブラコウモリなどのコウモリ類が生息しています。

野鳥では森林にすむものに出会える場所がいくつもあります。林内にカシ類が多い関係からか、特にカケスが多く、冬にはオンドリの群れが谷川の淵に飛来します。照葉樹林は鳥の冬越しに適した環境でもあるのです。春から夏の期間は、サンコウチョウ、アオバト、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラ、エナガ、オオルリ、ミソサザイなどが巣をつくり、秋から春にかけては、シロハラやツグミ、ジョウビタキ、ルリビタキ等のヒタキの仲間やウソ、クロジ、アオジなどの冬越しの場になります。

探鳥コースとしては、秋津川のおおぞうの大沢の上流部で県道からそれて、支流に沿って入ると、どこでも格好の観察地です。林道を歩いて山草を楽しみながら野鳥の声を聞くのもいいし、林道の片隅に



ノウサギの糞



ヒミズ



コウモリ的一种



メジロ (巣)



シロハラ

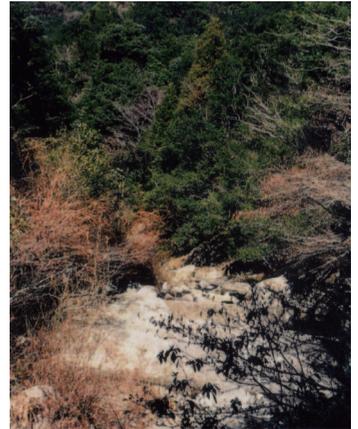
座って、野鳥の声につつまれながら、リスやノウサギ、トンボやチョウなどが飛び交うのを待つのも、それはまた格別に楽しいものです。

右会津川の支流である谷川や池の川でも、かなり多くの鳥に出会えます。市道や林道が整備されているので、子供連れのハイキングや昆虫採集をかねての探鳥コースとしておすすめできます。

また、左会津川の上流部の伏^ふ菟^と野や熊野川付近もよい観察地です。山地性の動植物に加えて、暖地性のめずらしいものも見られます。この地域の方が車道が整備されていないこともあり、林道を歩いて昆虫や草花を観察するのに適しているといえます。熊野川の道端にはカゴノキの巨木が一本あります。太さ（胸高直径）約1 m、おそらく和歌山県下では最大の木でしょう。



ルリビタキ



源流域